

『協働のまちづくり懇談会』 会議録

(H28. 2. 12 14:00 ～ ふれあいセンター保健指導室)

出席者

- ・いきいき運動推進員 14名
- ・市 善岡市長
- ・事務局 湯浅総務部長 中村介護福祉課長 安原市長公室課長
齊藤市長公室課長補佐 北川主任保健師
- ・包括支援センター 佐々木いつみ

1. 開 会

事務局 ～ 皆様、本日は大変お忙しい中、懇談会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。ただいまから、協働のまちづくり懇談会を開催いたします。はじめに、懇談会の開催にあたりまして、善岡市長よりごあいさつを申し上げます。

2. 挨 拶

市長 ～ 皆さんこんにちは。挨拶、と言うほどのものでもないのですが、皆様方には日頃から市民の健康をしっかりと守って頂いていることに、まず最初に御礼を申し上げます。平成3年にこの建物が出来た時に、私が初代の管理係長をしておりまして、たった1年しかおりませんでしたけど、私の役所人生の中では、ここにいたときが一番楽しかった、と思います。何が楽しかったかと言いますと、事業が出来たことでした。いろんな事業、健康祭りとかですね。自慢話をするわけではありませんが、私が保健師を一人連れて全道を渡り歩いて、それでこの近隣でやっていないことをやりましょう、ということで保健所とも協議しまして、国の方から250万か300万くらいのお金を付けてもらいました。当時いろんな団体に話しをしまして、農協に行って豚汁を作って欲しいんだけど誰かいませんか、と言いますと、当時の農協の婦人部の、何会と言いましたか、御願いをしまして、その人たちとの付き合いは今でも続いたりします。初めて乗り込んで行ったのですが、その人たちも良いですよ、ということで、材料費はこちらで持つのですが、ボランティアで健康祭りの時に豚汁を作ってくれました。他にもいろんな人の力を借りて、当時健康祭りを開催しました。保健所の方からもいろんな物を無料で提供してもらったり、ヤクルトの方にもお願いしたら、宣伝も兼ねて何百本も無料で提供してもらったり、ですとかいろんな人と関わりながら、当時事業を行うことが出来ました。その事業も残念ながら行革の嵐の中で消えていってしましまして、折角の数少ない私の足跡が無くなって、ちょっと残念かな、と思いますけど、それに変わるものとして、皆様地域を廻って、なかなか外に出られない、そういう人たちを相手にいろんな

運動を、いきいき体操を、取組んで頂いていることに非常に感謝を申し上げる次第であります。私が市長になってから、高齢者対策をしましょう、ということで、これはどこの市町村でも恐らく同じようなことを言ってるんですね。町内で見守るようにしましょう、と。それでは町内で、ボランティアで、誰を見守れば良いのか。たくさんいるところ、ちゃんとやっているところは良いのですが、そうでないところは機能しない。掛け声だけで終わってしまうんですね。それが嫌なものですから、うちの若い職員二人に、本州のどこどこを見てこい、と。そして自分達で自由にどうしたら良いのか、機能する方法を考えろ、と。そうして、条例化しましたけど、砂川市の見守りの仕組みとしまして、対象者を拾おうと。とにかく職員は全戸を廻れ、と。65歳以上の世帯で対象になりそうなところは、民生委員と町内会長とタッグを組んで、全戸を廻らせました。それで昨年ですけども、907名、今も刻々と人数は動いているのだと思いますけど、いわゆる独居と言われる方が手を挙げてくれた。私のところを見守りして下さい、と。そして必要な情報は地域に降ろして良いですよ、と。ここまでやっているところは他には無いわけですし、これは何故ここまでやったかというところ、将来は、高齢化社会を迎えますといろいろな大変な事態が起きるわけですし、地域コミュニティをちゃんと守りながら、在宅医療だとか、地域包括ケアシステム、いわゆる保健・福祉・介護、それから運動とか住まい、これらを一体的に管理できる街にしたい、と。何故そこに至ったかと言いますと、うちは市立病院を持っていて人口もそれほど多くない。だけど福寿園なりグループホームなりいろんな施設はある。それらをトータルで管理しながら、高齢者を、在宅に関しては出来るだけいられるように、介護をする人には負担がかからないように、と。やはり、うちの親なんか認知症にかかったのですが、これを家で見ましょう、何て言ってもそれはなかなか簡単なものではないんですね。出来るだけ介護をする人、家族の負担を軽減することを併せてやらないと絶対に機能しない。だからそういう施設を作りながらトータルでやっていきましょう、と。大まかにはそういう風に私は考えたのです。ただ、それだけやっても、どんどんと予備軍が次々と出てくるわけで、どうしても皆さんには外に出ておいで、と。家に居ても認知症になるだけで体も弱る、と。だから外に出ておいで、というのがもう一つの政策の柱でありまして、それで私がここにいました時に作ったのが食生活改善委員会です。出来上がったのは私が出た後なんですけど、最初に声かけをして、栄養士を職員化して、その人を核にして食生活を改善しよう、と。要するに早いうちから食生活を変えていこう、と。成人病の予備軍を減らしていく。それともうひとつ、運動する機会を作る。これとタッグでやらなければ、なんぼ見守りの方だけやっても、予備軍がどんどん増えていくわけですから手が廻らなくなる。それをトータルで管理しよう、というのが当時市長になった私の思いです。なんでそういう風な考えになったかというところ、私も役所の管理部門が長くて、財政がどうか行革がどうか人事がど

うとかいう部門ばかりなんですけど、現場に唯一いたのがここだったんですね。そのときの記憶があって、それをトータルに管理しよう、というのが私が市長になってからの高齢者対策の考えなんです。今日は皆様方に堅苦しい話ではなく、いろいろとやっているという問題があるんだ、ということ率直にお聞かせ頂いて、私が次に何かをやろう、というときの参考にしたい、というのが趣旨でございまして、この団体に限らず、いろんなところへこちらから出向いて、この4年間話をしてきました。それを具体的に政策に反映させてきまして、去年は、子育てに力を入れる、ということで子どもが一人いるお母さん達に集まってもらって、今、子育てに何が必要なのか？というのを生で聞いてみたんです。そうしたらいろんな意見が出まして、その中から予算を見ながら、一番機能するような方策を4月から実際に実施してみました。お母さんたちも喜んでくれましたが、生の、そこにいる人たちの声を聞いて、それをどう実際出来るのか、というのが重要なところでありまして、今回もいろいろやられている皆さんの、行政に対するお叱りももちろんあるかもしれませんが、そのようなことを聞きながらいろいろと懇談したいな、というのが趣旨であります。今日はどうぞ宜しく御願致します。

3. 自己紹介

- ・市の出席職員、包括支援センター職員の自己紹介を行う。
- ・いきいき運動推進員14名の方から自己紹介を受ける。

4. 懇談会

<説明>

- ・事務局より資料の「市民との協働によるまちづくりをめざして」について概略説明。
- ・事務局より、いきいき運動推進員のこれまでの活動履歴について概略説明。

市長　～　あまり堅苦しくなるのも何ですから、席もこういう配置にしまして、職員は後ろの方に控えるようにしています。昔は市長の隣に部長がいて課長がいて、と並んでいたのですが、そうすると聞いているほうが威圧されてあまり喋らなくなってしまいうんですね。それで、職員は後ろの方に居なさい、と。なるべく市長が直接お話をしよう、と。分からないところは後ろに聞きますが、そういう風になっています。先程の自己紹介の中でもありましたが、市長もようやく私たちの活動に気付いてくれた、ということでしたが、最初は私も知らなかったんです。それで、市長になってから、地域交流センターかパークホテルでの余興だったか、踊っているのを見て、こりゃなんじゃ、と思ったのが最初でした。その時に趣旨をお聞きして、ああ一回この人たちと懇談したいな、と思っていたんですが、私もあちこち出歩いています、なかなか時間が取れない、というなかで大分遅くなって

しまつて申し訳なく思うんですが、市長になって1年目か2年目かに見て、あんなかなか良いことをやっているな、と。なかなか細かいことというのは市長の耳には直接入ってこないことが多いのですが、いろんなことをやっているものだから、政策に関わる大きな話しか入ってこないんですね。全部入ってくると私もパンクしてしまいますんで、それで、私も歳とともに、新しいことが入ってくると、古いものから消えていかなとなかなか入ってこない。昔は何でも入ってきたのですが、最近が必要なものだけ整理して残しておく、という感じですね。それで、ももとのスタートというのが、ふれあいセンターで保健師さんが平成18年に養成講座を開いたときの受講生が1期生、ということで良いのですよね。正直に申し上げましてこれまでの経過というのは今日の資料を見て初めて知った次第です。当時、保健師さんが時代を見据えて頑張っていたんだな、と。この後はフリーでお話頂いて結構ですのでどんどんいきましょう。

推進員 ～ 平成18年に初めて出来たんですけど、その前に、2～3年前でしたかね、同好会というのがありましたね。

事務局 ～ 生活習慣病予防の動こう会ですね。

推進員 ～ 歳をとると体が弱ってきて、それを放置しておくといけないので、体操をやりましょう、元気になりましょうと。そこに参加したんですね。その次に2～3年して、これだけではいけないな、と。養成していかななくてはならないな、と。それで18年に養成講座が開かれたわけですね。

市長 ～ その前からいろいろと保健師さんがアプローチしていたんですね。

推進員 ～ 国の方で介護保険予防教室みたいのをやりなさい、と。当時そのようなのがありましたね。各市町村で取り組む必要があつて、そこでいち早く保健師さんが取り組んだんですね。

市長 ～ すごいですね、うちの保健師さんは。昔は包括支援センターとかが無くて、それで保健師さんが一手に引き受けていたんですね。全部やる、と。それで私がこの管理係長をしていた時に、保健師が全部やっていたのは手が廻らないのではないかと、思いました。人数を増やしても仕事がどんどん増えていくような状況でしたが、その後制度が変わってきて、介護予防なんかも他の人が出来るようになってきたんですね。

推進員 ～ 他の市町村、上砂川なんかでは、同じ時期に百歳体操とかやっていましたね。

市長 ～ 旭川なんかでもやっていたね。このいきいき運動と同じなんですかね。この運動は最初、誰が考え出したんですかね。

事務局 ～ 最初、健康指導員の方が考案しまして、それを又皆様が伝えやすいような方法でいろんな意見を頂きながら修正して冊子化しました。

市長 ～ それで、実際に集まって、みなさんでその体操をしているんですね。後で見せてもらおうかな。私もこれをやらないといけない歳になってきましたかね。市長になるとタクシーで移動とかが多くて、歩く、ということをしなくなりまして、土日潰れるものですから、たまの休みの日には家で寝転がって引きこもり状態ですね。年々体力が低下してきて、これ、市長を降りた時には何も出来ない状態になっているんじゃないか、と思ってます。

推進員 ～ 先程、忘れっぽい、という話もありましたが、そういうのもありますからね。

市長 ～ うちの親が80歳過ぎて認知症になりまして、家系的にいくと私もこんなことをやっているとそうなるのかな、と。確率でいくと2～3人に一人は間違いなくなるわけですから。昔、40歳代のときに新宿で手相を見てもらったら、完全にボケの手相だと言われまして、典型的な手相だと言われました。実際親がなったので、私には危険因子がたくさんあります。自覚症状が出たら、それを遅らせるような措置をとらないとだめなんでしょうね。市長をやっている間はいろんな人と話をするので大丈夫なんだろうけど、問題はやめたときでしょうね。恐らく引きこもってしまうでしょうね。

推進員 ～ 精神科の内海先生が言われていましたが、90歳を過ぎて認知症でない人はすごく見つけもの、幸せな方なんですね。大抵なりますからね。程度の差こそあれ。

市長 ～ そうでしょうね。うちの親も85歳位でなったのかな。体は元気なんですけどね。まああまり暗い話ばかりしてもなんですから、それを遅らせようとする努力を皆さんがやっている、ということなんですよ。

推進員一同～ そうです。

推進員 ～ 認知症だけでなく心身の健康維持と併せて、そのことが認知症の予防にもなりますよ、ということなんですね。

市長 ～ そうですよね。介護、介護、と言って施設を作れ、作れ、と言うけれども、それを遅らせるような努力をしないと、なんぼ施設を作っても追いつかないわけです。

ね。私は食生活については早くから力を入れてまして、それで食生活改善協議会を作らなくてはだめだね、と当時から言っていました。

推進員 ～ 今の時代、健康なお年寄りで、運動はしていない。普通の生活をしているんだ、という人は結構いるんだと思います。そういう方々を未然に防ぐ為に、是非広げなくてはならないと思います。

市長 ～ 宣伝をもっとしなくてはならないですね、行政が。

推進員 ～ それが希望です。

市長 ～ 皆さん方にやれ、と言っても出来ませんよね。私がカメラを持ち歩いているのは、別に写真が好きと言うわけではなくて、ボランティア団体のところに行った時に必ず写すようにして、みんなが知らないところでこんなことをやっているんですよ、ということを市のホームページの中で写真を載せてみなさんにお知らせしよう、というのが本来の私の動機なんです。市長がカメラを持って歩くな、と怒られた事もありますけど。部長にもページを持たせて、いろんなことを紹介しなさい、ということで力を入れてやっております。今日もいろいろ写真を撮らせてもらいますが、こういう活動をしていますよ、人も募集してますよ、ということで紹介したいと思っています。ところでこの4期生というのは3人しか来なかったのですか。

事務局 ～ サロンが充実しているところということで、空知太を会場にしたことも影響したと思います。市民であれば誰でもOKなんですが、やはり、ちょっと遠くて、という方も多かったのと、それから、人前で指導するのはどうも苦手という人も多かったのかな、と思われまます。

推進員 ～ そうなんですよ。こうやって養成講座を受けまして、インストラクターの先生とか保健師さんから指導を受けまして、何回か養成講座を受けて、いきいき運動推進員ですよ、と言われていろんな会場に派遣されるわけですね。保健師さんがこっちの施設、老人クラブ、と割り振りしてくれて。でもこちら素人なものですから、一緒に習うのは良いのですが、反対側に立ってする、というのはなかなか大変なですよ。先生とかインストラクターの資格を持っている人は別として、にわか素人には大変なんです。それでも参加される方はみんなすごい真剣な眼差しでこちらを見ているんです。だからこちら生半可な気持ちでは出来ないんです。真剣になってするんですよ。

市長 ～ 最初は特にそういう苦勞をされたんですね。

- 推進員 ～ そうですね、いろいろとノウハウを絞ってですね。
- 市長 ～ 今は1期生とかベテランの人とタッグを組んで行ったりしているんですか。
- 推進員一同～ そうですね。
- 市長 ～ そうでないは大変ですよ。よく分かっている人と一緒にないと又同じ思いをしますよね。
- 推進員 ～ 皆さん大変お上手ですよ。でも折角養成講座を受けても、2期生でしたか、半分くらいやめていったこともありましたからね。
- 市長 ～ それでもまだ来てくれただけ良かった、ということになりますかね。やはり宣伝不足の問題でしょうかね。1期生はそれでも多かったんですよ。
- 推進員 ～ 1期生は18名受けて、現在残っているのは6名しかいません。
- 推進員 ～ 亡くなった方もいますからね。
- 市長 ～ 10年も経っていますからそういうことにもなりますよね。やはり最初はいろいろと苦労されたんですね。
- 推進員 ～ 何も無いところから始めましたからね。
- 市長 ～ 1期生が道筋を作ったようなものですね。
- 推進員 ～ 1期生と2期生でしょうね。
- 推進員 ～ 施設とかにペアを組んで行く時には、お互いによく話し合ってから行きますね。どなたと行く時でも。ぶっつけ本番ということはありません。
- 市長 ～ 実際に地域で参加する人たちは、やはり真剣になってやるんでしょうね。
- 推進員 ～ 来るのを待っていますよ。もう本当に一生懸命やります。時には涙を流してやっています。
- 市長 ～ それは、やはりそういう人たちは、日頃からそういうつながりが無いからなのではないでしょうか。つながりというか、出て行って人と接する機会が少ない人が多いのでし

ようかね。その事業をきっかけに出てきた、ということなんでしょうかね。

推進員 ～ やはりそれを通じて人と会いたい、人と話しをしたい、というお年寄りが多いんだと思います。

推進員 ～ それからですね、町内会の会長さんによるところも大きいんだと思います。会長さんがこういうものに興味が無いと、全然うまく進まないんですね。

市長 ～ ああ、確かに会長さんですね。私もよく話す機会があるのですが、順番でやる方たちはなかなかちょっとですね。ちゃんとやる方は、こんなにやるの、というくらい熱心に動いてくれますが、町内会によっては順番で1年交代というところもあって、そういうところはなかなかうまくいかないところがありますね。町内会長さんとはいろいろ話す機会があるのですが、やはり一定の限界はあるでしょうね。

推進員 ～ 町内会の会長さんの力は大きいと思いますよ。

市長 ～ 私も町内会の新年会には14ヵ所も呼ばれて、1日3ヶ所も廻ったりするんですが、やはり話すと分かりますね。熱心にやっているところは。毎月全部の高齢者を見守りで廻っているところもあるくらいです。毎月ですよ。そこまでやったら役員の人も死んでしまうのではないかと聞いたら、会長さんが先頭に立って走るものだから役員も何とかそれに付いて行ってますと言っていました。すごく進んでいるところとそうでないところの差が現実的にあるものですから、進んでやっているところをなるべく紹介しながら、そうでないところとの差を小さくしていくのも私の役目ですね。いろいろと呼ばれるので、そこで話を聞きながら他の町内会の取組も伝えていく、ということですね。私が気になったのは、地域で孤立している、そういう機会が無いのか、或いは老人クラブが無いのか、老人クラブに入るのがいやだ、という人もいますから。他の所には行くけれども。そういった原因がどこにあるのかな、というのが気になったところなんですけど。

推進員 ～ 今現在参加している方はほとんど健康維持、という部分は持っていると思うんですけど、それに附随して、いろんな人と話をしたい、仲間同士で話をしたい、という人も多いんだと思います。

市長 ～ よく老人クラブ連合会なんかで聞くと、ここに出てきている人はまだ良い、と。出てくるから。出てこない人達をどうやって連れてくるか、何とか出してくる方法を考えないと、そういう人たちは人と接しないで、認知症になりやすいか、運動をしないから足腰が弱りやすくて、必ず介護のお世話になる時期が早くなる。それを防ぐにはどうしたら良いか、というのが課題になっていて、ちょっと気になっている

ものですから。

推進員 ～ 今市長さんが言われたように、出てくる人は良いんですよね。効果測定とか評価とかしていないですから、結果は出ていないんですけど、私達ははっきりと効果が出ていると分かるんです。こういうことが出来るようになった、ああいうことが出来るようになった、という話を聞きますから。

市長 ～ 来ない人をどうするか、というのは永遠の課題なのかもしれません。違うメニューも揃えれば、そっちの方で出てくる人も増えるのかもしれない。でも万人向けに一つのメニューでみんなが揃って出てくる、というのは難しいのでしょうか。ただ、話を聞いていますと、人によっては涙を流して参加しているというのですから、やはり運動の効果はあるのでしょうか、はっきりと。

推進員 ～ 私は宮川中央団地の方におりまして、もう10年くらい続けてやっているのですが、みなさん最初のうちはいやだ、という方がほとんどでした。私も運動推進員で、そのとき老人会の役職ももらったものですから、どうしてもやらなくてはいけなくて、そうして10年後、今ではみなさん頑張るようになりまして、評判はすごく良くなりました。

推進員 ～ 宮川なんかは、私達が関わるようになってからすごく変わりましたよ。出てくる皆さんの参加姿勢が変わりましたね。

推進員 ～ それは、どこの会場でも言えることじゃないですかね。回数を重ねるごとに変わってくる。前向きにね。

推進員 ～ それが、どこでどうなっているのかよく分からないんですが、やはりトップの方の働きかけが大きいのではないかと思います。

市長 ～ 会長さんの理解度が違うんでしょうね。みなさんにちゃんと声をかけて。

推進員 ～ 会長さんの理解度でしょうね。会長さんの理解度が高いところは割りと入っていきますね。

市長 ～ 普段から声をかけて、コミュニティが出来ている、いろんな行事をやっているところは人も出てくるんですね。

推進員 ～ 私のところの町内は、会長さんがそういうところにとっても熱心で、自らもいつも参加して下さいますし、無理な時でもわざわざ連絡してくれたりします。私のことな

んですけど、私もこのふれあいセンターのサークルに1週間に1回2回と通っているんですが、その、来年度書類をいろいろと出さなければならないんです。名簿とかいろいろ書いていますと、去年の名簿をそのまま、という訳にもいかないんです。ずっと来ていないな、この人、という方にはお電話しているんです。住所を見てもちょっと分からないんですけど、奥さんどうしました、ずっと来てませんよね、と聞くと、もう私は抜けます、と言うんですね。ああそうですか、何かしていますか、と聞くと、何もしていません、と言うのですが、聞くと一人住まいのようなんです。そうしたら、南コミュニティセンターの方の住所ですかと聞くと、いやあっちの方ではない、と。私は体操を勧めようと思って、聞いてみたら交流センターが近いらしいんです。ゆうでは毎月月曜日にしてますよね。こればかりではないんですけど、違う体操もしていますので。それで、ゆうに間違いなく月曜日に行ってください、きっとお友達も出来ると思いますよと言ってみました。名簿を見ると74歳のようなんです。それを見て、まだまだこのふれあいセンターにも来れるかな、と思ったんですが、その方は、ゆうで何かしているのなら行ってみようかな、と言うので、是非行ってください、と話しました。体の調子の話とかもされていまして、私からもこうしたら良いんじゃない、というような話をしておきましたら、最後はとても喜んでくれて、今日お話できてとても良かった、というように言っていました。きっとその方は出てきてくれると思います。ゆうを紹介しましたので、宜しく御願います。

市長 ～ 私は心配しまして、難しいことなんですけど、もう一回地域コミュニティというものを作り直そう、と。あまりにもこう昔と違って無関心とか関わらないのが美德、みたいな雰囲気あまりにも行き過ぎちゃって、住民四情報は個人情報だから出してはいけない、というような過剰な反応になってしまって、それは違う、と。あれは福祉目的のために使うことまで否定したものではないんだ、と。だから条例を作って公表しましょう、と。ただし同意は得ながら、管理はちゃんとするけれども。要するにもう一回、昔ほどにはなりませんよ。だけれども地域コミュニティを町内会を中心に構築する為に、事業への補助金を作ったんですね。事業をやる町内会にはその経費を見ますよ、備品が必要ならそれも見ますよ、と。結構会長さんは大変だと思いますけど、やってくれている町内会さんは。結構申請はあがってきているんでしょう？

事務局 ～ 全87町内会中、83町内会から申請が出ています。

市長 ～ 83町内会に利用していただいています。親睦事業をやることによって人に出てきてもらう。そうしてコミュニティをもう一回作ってもらおうと。そうでもしないと段々無関心になってきますからね。

推進員 ～ 確かに、町内会の中でも個別化が進んでいますね。共同化ではなくて個別化ですね。ひとりひとり別なんだ、という意識がじわじわと進んでいますね。

市長 ～ 進んでいるでしょうね。と言っても昔のようにはなりませんよ。遠くの親戚より近くの何とか、ってありましたよね。そこまではいかないんですが、少なくとも町内会の中で行事をやったりしながら、コミュニティを形成してもらおう。よくやっているとところは出席者も多いから、対象者も多く、声をかけてくれる。そこを地道にやっていると、なかなかいい限り、難しいんですよ、ただ口で言っているだけでは。そんなことをやろうとして取組んでいるんです。

推進員 ～ 是非ですね、町内会長さんに、体操のことも含めて、投げかけて頂きたいですね。是非、そういったことの理解を深めて欲しい。それが今年の課題です。

市長 ～ 他に何かございますか。

推進員 ～ 利用者の方、参加者の方にですね、利益というかポイント制を導入しているところもあるんですよ。横浜の方ではウォーキングをして何ポイント、一年間のポイントで商品券をあげて、それで街で買物が出来る。高知でもポイント制をやっていて、一年間びっしり行ってもせいぜい3千円か4千円ですかね。そうすると買物の効果も含めて、まあまあ良いというデータが出ているんですね。それで全国でもそういった制度が出来てきているんですね。ポイントといっても微々たるものですが、それが参加者の励みになるんですね。お年寄りの参加のきっかけになるんだと思います。是非そんなことも検討して頂けないかな、と思います。

市長 ～ そこまでやらなければダメでしょうかね。参加の動機付けにはなりますかね。まあ大した金額にはならないのでしょうかね。

推進員 ～ 参加賞みたいなものでしょうかね。

推進員 ～ 上砂川では、参加者に手作りバッグをあげているんですね。ウォーキングに何回参加したらこれもらえたの、と話されていました。

市長 ～ そうというのが動機付けになるんでしょうね。

推進員 ～ 集まりまして体操をしますでしょう。そうすると体操だけではなくて、人との挨拶とか、他愛の無いおしゃべりとかが良いんでしょうね。私達は1時間体操をした後、結構大きな会場でしたら、福祉センターとかでしたら、社協の人が来てゲームとかしてくれるんですね。それで大体1時間くらいですから、10時に始めましてお昼く

らいになるんですね。私の望みとしては、体を動かした後、簡単なランチみたいなを提供できたら良いな、と。またそれで楽しみが一つ増えるんじゃないかなと思うんです。ワンコイン位で、食改の方にも手伝ってもらって、そういう場を設けてもらえたら良いんじゃないかな、と思うんです。ちょっとした、パンでも良いんですけど、またそれが楽しみになるんじゃないかな、と思います。

市長 ～ 正直に言いまして、今の高齢者というのはどうなんしょう。今の高齢者といひましても考え方もそれぞれ違うでしょうけど、90歳を超えると戦争に行った世代でしょうし、70歳代80歳代くらいの人何か傾向的なものってあるんでしょうかね。あんまりないですかね。

推進員 ～ まあそれはあまり年齢に関係なく、人それぞれなんでしょうけど。やはり参加されている方というのは、人との輪を求めているんだと思います。

市長 ～ よく老人クラブ連合会なんかへ行くと、老人クラブの参加者が減っている、市の方で何とかしてくれないか、という話を聞きます。ではなぜ老人クラブの参加者が減っているのか。対象者が減っているわけではない。昔は老人クラブが唯一の拠り所で集まっていたのに、それが集まらなくなってきたのはどうしてか、気になっているんです。

推進員 ～ それもやはり、利用している人の姿勢が大きいのではないですかね。

市長 ～ 目的がはっきりしていれば良いんでしょうかね。例えばこういう風に体操をやって皆で楽しもう、というような。ただ漠然とやっていると、人間関係がどうこうといった部分に入っちゃうのかな。

推進員 ～ 私のところでは老人クラブで集まっているところもありますけど、やはり地域のしがらみがいやだ、という人もいて、そういう方は結構福祉センターだとか交流センターだとか、関係の無いフリーなところには参加されています。

推進員 ～ そのフリーな場所、運動をする場所を作れば良いんでしょうね。

市長 ～ そういう場所だと揉めるとかそういうことが無くて自由に出来るんでしょうね。

推進員 ～ 毎回参加するけど、あっちではマージャン、こっちではお喋りというような感じになってしまうんでしょうね。旅行なんかだとみんな集まりますよね。あれは目的がはっきりしているから。

推進員 ～ 今、大きなところ、ゆうだとか福祉センターとかでは、体操とレクリエーションなんかをセットでやっているんですね。大体2時間で。それは皆楽しみにして集まりますよ。1時間運動して、それからいろんなゲームをやったりレクリエーションをやったり、楽しむことをセットでやっていますね。

市長 ～ あれは楽しいでしょうね。見ていても楽しそうですからね。

推進員 ～ そうやっている、会話が生まれるんですね。なかなか普段は人と話すことが出来ない人たちが、そういったところで友達を作って、友達になったから又次も来る、という良い面もありますね。町内会でやっている、正直言って近所付き合いの枠の中になっちゃうんで、自分も町内会やってますけど、なかなかその、出来ないんですよね。もうひとつ町内会でやるのに問題なのは、集まる場所なんです。施設がある所は良いですけど、無いところはそれがなかなか出来ない。だから町内会によってすごく差がついちゃうんですね。

市長 ～ あっても広さの問題もあるでしょうね。その、町内会の問題は何となく分かりました。その、場所の問題の前の話ですね。

推進員 ～ あともう一つの問題が、昔から住んでいる高齢者と、最近引越してきた若い方との接点が全く無い、というところですね。普段の付き合いが全く無い。若い人たちはほとんどが共働きですし、小さい子を抱えて、町内会に関わっている暇など無い。高齢者の方と対話している暇など無いんですね。

市長 ～ 今ですね、新しい町内会長さんたちが試みているのは、段々と人が減ってきたので、従来からの高齢者と、子ども中心とを一緒にやって、子どもには親もついてきますから、ビンゴに当たったら親に自己紹介させて、親は初めて来ますから、町内会の集まりに。去年辺りからポツポツと増えてきましたね、そういうのが。新年会に行く、と分かるんです。ああ、もう高齢者だけではやっていけないんだな、若い人をどんどん巻き込むには、子供向けにたくさん景品を用意して、当たったら親がどこどこに住んでいる誰々です、と自己紹介させるんです。ああ新しい取組をしているな、と。それはやはり自ら出て行ってそういったのを見ないとわからないから、大変だけど出て行っているんです。それで、さっき私が聞いた、70歳代80歳代の人たちはどうなんでしょうね、というのはあまりにも漠然としすぎていたかもしれませんが、お話を聞いていますと、地域のしがらみがあると、それ以上の人間関係を求めないのかな、違う場所へ行くと地域の顔も見えないから自由にやれたりするのか、と。そういった傾向がわからないと、市でもどう対応していけば良いのか分からないんですね。そういったことを知りたかったんです。地域で体操をしているうちは良いんだけど、それ以上になると嫌がる部分もあるんでしょうね。

- 推進員 ～ あとですね、それに関連して、あの、タクシーも協同で運行していますよね。あれも良いようで大変なかなか、ちょっとですね。ゆうに行かれる方はそうですね。一番早い時間で行って、一番最後まで帰れないんですね。そこに例えば10時に行こうとすると、8時には出なくてはならない。
- 市長 ～ 乗り合いタクシーですか。あれもなかなか難しいですかね。病院へ行くのを想定しているのかな。全部のニーズに答えるには全路線を用意しなければなりませんからね。早く病院へ行きたい人には早く出さなければなりませんね。
- 推進員 ～ やはり、運動推進員というのをもっと増やしていかなければなりませんね。今回は自分たちは南地区を担当するんですけど、南というのは2号線から南になりますが、町内会館としては10戸あるんです。その中で現実に使っているのは2箇所。まあまああというところが1箇所とあとは南コミセンですね。あと、南吉野と中央団地ですか。本当は10箇所もあるんだから、その半分以上をこなせるようにしなくてはならないでしょうね。先程もありましたが、町内会連合会の会長さんも老人クラブ連合会の会長さんもどちらも南の方なんです。その方たちにもうちょっと理解をして頂いて、市長さんにも年に何回か声をかけていただいて、豊栄会館とかでも出来るようになればな、と思ひまして。
- 市長 ～ 運動推進員はまだ増やさなければならぬということでしょうかね。
- 推進員 ～ 市長さんに是非御願ひしたいのは、いただいた資料にも書いてありますが、今後ますます高齢化が進んで、機能低下を予防することが重要になってくるということ。それから、それを養成する推進員が増えないこと、この辺が課題なんですね。難しいんです。10年間やってきましたけど、少しずつ増えてはいますけど難しいんです。今参加しているお年寄りたち以外にもたくさん、まだ健康な方がいるんです。その人たちに何とかどうにかして認識してもらって、こういうことをしていかなければなりませんよ、と。それと推進を呼びかけても集まらない、と。これがもう限界に来ているのかなと思うんです。それでどう推進員を育てていくかということで、生活習慣病の予防と、食生活の改善というのが行政の中心課題であるならば、その一環として私たちも頑張っていますけど、長としてもその辺に視点を置いて、何とかそこを打開できないものかなというところなんです。
- 市長 ～ 今回こうやって懇談会を開いているのもそこが狙いでして、健康を長く保持すること。最後まで健康、というのは無理ですけど、出来るだけ健康な状態を維持する為にどうしたら良いのか。健康というのは一つの大きな柱になりますので、その手法の一つとしていきいき運動推進員の方がおられると、それはどういう活動をしてどうなのかな、というのを知りたくて今日は来た訳ですね。

推進員 ～ それとこれは一つ大きな問題なんですけど、女性が多くて男性が少ないんですね。3割いないですね。1～2割でしょうか。男性を多く集める方法を考えないと。

市長 ～ 私もよくいろいろなところへ出かけるんですけど、私の行くところにいる人は大体7割は女性ですね。要するに出てくるのは女性なんです。元気が良くて、理屈でものを考えないところもあるでしょうから。男性は、出るにはまずどうして出るんだ、と頭の中で考えちゃうんですね。それを越えた人は出てくるんですけど。ほとんど、圧倒的ですね、いろんなところで活躍しているのは女性なんです。町内会長とか地域の役割の中では男性がやってくれるんですけど。これはどうしたら良いんでしょうかね。ただ、今回いきいき運動推進員の皆様と話しをしながらどういった問題があるのか、どんな要望があるのか、どういったところを行政がどうやっていけば良いのか、それを参考にしたい、というのが今回の目的なものですから。

推進員 ～ 来た方に聞くと、いや楽しかった、又来たい、と言って帰るんですけど、なかなかそれが増えないんですね。

市長 ～ どこに問題があるんでしょうね。男は、難しい人が多いですよ。

推進員 ～ 往々にして自分の殻に閉じこもる人が多いですからね。

市長 ～ 開かないですよ、なかなか。それをどう開いたらよいか。やはり学者が言うには、動機付けが明確でないと、男というのは行動を起こさない。女性はそうでなく、本能的に楽しいと思えば行動に移すみたいですね。何十年も働いてきた経験が残っていて理屈で考えちゃうんですね。そこが合わなかったら、なんぼ町内会長が言おうがても動かない。有効な解決策というのは私もすぐに思い浮かばないんですけど、いろんな集まりの時に少しでも話をしていくしかないのかな。

推進員 ～ そういう男性の傾向もあるんでしょうけど、少しでも活動の内容を理解してもらいたいと思いますね。

市長 ～ それで、いかにこういう取組をしているのか、というのを宣伝していくのは行政の役割だと思います。

推進員 ～ それは、我々もだけど、行政にも御願いたいところですね。

市長 ～ その辺は行政の役割だと思っていますよ。せっかく良いことをやっているんですから。

推進員 ～ ちょっと話が変わるかもしれませんが、これってボランティア活動として自分達やっているんですよ。極端な話、一銭にもならないんですね、現実には。ボランティア活動の中で一番の楽しみと言いますと、懇親会みたいのですね。これは全額自分達で補填してやっているんですけど、これ、市として考えるのは無理かもしれませんが。

市長 ～ いえ、否定はしませんよ。いろんな団体がいろんなしがらみでいろいろやっていますから。ただ食改にしてもそうですけど、次につながる人が減ってきているということ、そういう傾向というのがあるものですから、それをどうしていけばいいのか。皆さんの総意でそういうものが需要であれば、今ここで確実にやります、とは言えませんが、どんな方法が良いのか、ということでしょうね。

推進員 ～ 情報ですね。ビラを作って配る、というのも一つの方法でしょうけど、全市民を対象にして理解を深めてもらう、ということが必要ですね。今までそのようなのは無かったですよね。

市長 ～ 一番やったのは地域の見守りの時ですね。これはやらないと。講師も呼んできて、職員も増やして、地域包括支援センターの職員も併せて15人体制で全戸を廻らせた。だから、町内会長に話すにも普通は文書で送るんだけど、文書は送るな、直接行って説明しろ、と、そこまで徹底してやらせました。

推進員 ～ やっぱり、力を入れただけあって、今でも引き続きされていると思いますね、うちの町内なんかは。

市長 ～ そこまで労力をつぎ込んでやらなければ、町内会組織を動かすことは出来ないんですね。それでやっと、907名ですか、手上げ方式で、説得したりして、独居老人のほとんどを。私の情報を町内会に教えても良いです、四情報以外の情報もあるんですけど。そうやって手を挙げてくれたのは、保健師さんなり包括支援センターの方なり、うちの職員たちがびったりと廻ったんですね、対象者のところを。民生委員も巻き込んで、町内会長も巻き込んで。もうそうでもしないと全部のところを廻って把握するなんて、とてもできないんですよ。それと同じように体操の事をやれ、と言ってもえらいことになりますんで、その辺はちょっと違う方法を考えながらですね。ここ以外にもあるんですよ、私の課題は、食改とか、それからボランティアをやってるところも人が少なくて、登録する人が減って、人が足りなくて、そういうのをどうしたら良いか。ひとつずつやっていくと不効率なのですが、あまりごっそりとやってもわかりにくくなる。メインになっている高齢者対策では食改であったり、ここの運動推進員の皆さんであったり、大きな柱になっているんですね。見守られる側の人が増え続けていくと追いつかなくなる。だから、運動したり会話

したりする為に出ておいで、と。放っておくと黙っていても寝たきりになってしまう。出てこないでいるとそのうち足腰が弱って、会話しないものだから頭も弱っていく。それを防ぐことは、行政にとっても、介護保険料を低く抑えるためにも必要な事で、それが無いと、極端な話、皆さんの負担する介護保険料も上がってしまうんですね。それが上がらないようにして、見守られる対象もある程度増えないようにする。それは行政にとっては、経費の話をして申し訳ないんだけど、すごく数字的に大きな問題なんです。それをどう克服していくか。砂川方式を作っていかなくてはならない、という使命があるから、今日のようにお話を聞きながら、次のステップで、見守りの方は出来たけれども、成人病になる人を早いうちから抑えていく、運動をいかに継続させて、予備軍を減らしていくか、寝たきりの、それが一番大事なんです。その一つの手法として、かつては飲み食いの部分にお金を出してはいけない、というのがありましたが、その命題によっては出してもかまわない、という風になってきている。私も行政経験が長いですが、昔はこんなことに金を出してはダメだろう、と言われていたものも今では平気で出せる。世の中変わってきたんですね。例えば保育所をタダにする、何て言ったら、昔なら財政的にパンクする、と言われてきましたが、今ではそこまで踏み込んでいます。高齢者対策も、ずっと健康を維持する、というやり方ももっと踏み込んだやり方が必要になってくる。その為には実際にやっている皆さんの生の声を聞かないと、本当に生きた、効果のあるものにならないと思います。ですから厳しいこともどんどん言って頂いて良いんですよ。私も行革の係長をやっていた頃は随分と皆様に叱られましたので、鍛えられたと言うか、多少のことではへこたれませんから。それにしても1期生の方がもう10年も頑張ってきたというのはすごいですね。継続するというのは大変なことですね。今の日本の現状からすると、高齢者、という言葉がもう関係なくなるんですね。みんながもう高齢者だから。高齢者、という分類自体がおかしい。お互いに見守る状態にいて、できるだけ元気な状態を維持して、見守られる側に行かないでいる、ということが必要なんです。年齢ではなく。

推進員 ～ 出て来ない人たちにどうやって出てきてもらうか、ですね。

市長 ～ 難しいですね。ここですばっとは言えないですね。地道なアプローチしかないのかな、と思いますが。

推進員 ～ 私は、町内会単位での活動というのがすごく大切だと思います。うちみたいなところだと所帯が少ないから、すごく見える、というところがありますけど、大所帯のところなんかは難しいんでしょうね。

市長 ～ やっぱり町内会に頼らざるを得ないところもあるんでしょうね。ただ行政から全戸にばら撒いても、興味の無い人は見ないで終わってしまう、ということなんですよ。

うね。

推進員 ～ それで先程もお話したんですけど、町内会の代表の方がお集まりになるときに、こういう狙いで市は進めている、と。体操のことですね。推進員のこともですね、周知を深めてもらえないでしょうかね。

市長 ～ 町内会長さんが集まった時に今日のお話をして、今の政策の中では重要なことだということを話さなくてはなりませんね。町内会長も直接言えば動いてくれます。

推進員 ～ 結構動いてくれますよね。

市長 ～ 動いてくれないところも正直あります。1年で交代するところには、なんぼ言ってもやはり無理ですね。でも学校の先生とか退職された方で熱心にやってくれる人も段々増えてきてはいます。

推進員 ～ 町内会は今、80いくつですか。

市長 ～ 87ですね。

推進員 ～ その中で実際に行っている町内会はまだわずかですね。だからもっと浸透させていけないならないんです。その糸口が、私が行って話してもどうにもならないので。

市長 ～ 資料を作って町内会長が年に1回集まるんですよ。そこでちょっと喋らせてくださいと言って話したこともあるんです。総務部長のときかな。そういう機会を利用して、私が言っても良いですし。

推進員 ～ その時に、ちょっと生意気な事言って申し訳ないのですが、こういう事があるので宜しく、ではなくて、協議して、意見を言わせてもらえないか。そうすると、意見を言うと皆さん動きますので。こうやったほうが良いのではないか、とかですね。

市長 ～ 意見を言う時間を作ってもらいますか。町内会連合会と話す機会がありますので、そこでちょっとそういう時間を設けてもらいますか。食改のこともありますし、それはお約束します。

推進員 ～ 本当に町内会は大事ですね。密集しているところ、団地のようなところはまだ良いんですけど、飛んでいるところは、民生委員さんも足を運んでいるでしょうし保健師さんも連絡を何とかしなくては、としている中でも、現実的に孤独死というのが起きているわけですし、町内会の呼びかけというのは是非是非御願いたいと思

ます。

市長 ～ 全く孤立、というのはそんなに無いはずですけど、24時間見守る、というのは無理ですからね。しょっちゅう顔を合わせる人でも2～3日会わなかったら死んでいた、ということもありますからね。そういうのは孤立死とは言わないんだけど、新聞とかが変な風に書いてしまうんでおかしなことになってしまう。それで一人で住んでいる人は登録制にして、ちゃんと情報を分かるようにして、連絡も取れるようにして、それ以外の本人が言っても良いという情報も教えて、それを更新していくという仕組みにしているんです。

推進員 ～ 皆さんそれぞれに健康に対する意識や知識が高まってきていますからね。

市長 ～ 意識が高まっている人は、変な病気にならない限りは、しっかりと行くというのはハッキリしていますね。介護保険料を上げないために、と言えば皆さん頑張ってくれますかね。どうせ長生きするなら一年でも長く元気に長生きした方が良いのですからね。

推進員 ～ ですからいきいき楽しく健康づくりに、ということで私達の為に、前から横から後ろからバックアップを宜しく御願います。

市長 ～ わかりました。

事務局 ～ そろそろお時間の方も参りましたが、最後に何か御意見などありますか。

推進員 ～ 先程も言いましたけど、出てきてくれない人たちにどうにかして出てきてもらいたいですね。出てきていただければ、それなりに楽しいことがわかってもらえると思います。その辺を何とかアナウンスしてもらいたいと思います。

事務局 ～ 他にございますでしょうか。なければこの辺で懇談会を終了したいと思います。最後に市長からご挨拶を頂きたいと思います。

市長 ～ はい、何か終わるのが早いような気もしますが。本当に私が知りたいな、と思っていた意見も中でお聞きすることが出来ました。どことは言いませんけど。聞きたかった内容のヒントを得たのが二つほどありました。それから、町内会連合会へ、という話もありました。今日言った事をまとめたり、資料を保健師からもらって、ここの宣伝も兼ねて、一度町内会連合会へお話しをしたい、という風に思っております。今日は本当に貴重ないろいろな意見を頂きまして、ありがとうございました。もう少し話せば、もっと出てくるのかなという感じもしましたが、私の方は今日

の夜は会合があるんですけど、皆様方の都合もあるのか、後ろの方でばたばたしていますので。こういう話しは一回で終わるとは限りません。毎年いろんな団体と会ったり、私自ら出向いたりして、砂川の商店街とか企業とか、ほとんど私は廻りました。それで今の商業とか工業とかの現状とか、生で聞きながら政策を決定していく方針に変えて、私は大変しんどくなるんですけど、市が少しでも良くなるのであればそれが市長の役割であろう、と。土日も夜もふさがっているような状態ではありますが、何とか皆様の望むレベルに近いことをやっていきたい、というのが私の姿勢でありますから、今後とも、もし役所に来たときに、市長のところまで電気がついていたら、二階に寄って、私が運良く座っていれば、又お話が出来ると思います。来て頂いて良いですよ、と言って、実際に来て頂いてる方もいます。しょっちゅうでは迷惑をかけるということ、来た時に寄るといっていろいろお話をしていく。そういう付き合いの中から、身近なところから詰めていかないと、本当に生きた政策にならない。机の上だけで、外へ出て行かないで、国の方針を見ながら作る政策では、本当に心のこもった政策にはならない、というのが私の主義でありますから、これに懲りずに、又機会があったらお話できれば、と思っております。今日は大変ありがとうございました。

事務局 ～ それでは以上をもちまして協働のまちづくり懇談会を終了いたします。本日は大変ありがとうございました。

終了 (15:25)